

国際シンポジウム

幕末外交と日本コレクション

—遣外使節団の贈答品を探して—

International Symposium

Gifts of Diplomacy:

The Japanese Missions and Their Legacies in Collections

2026.

1

土
sat

10

1

日
sun

11

ウェビナー・ハイブリッド開催



万延元(1860)年、ホワイトハウスで大統領による接遇に臨む遣米使節(部分)
(ホワイトハウス蔵 White House Historical Association/White House Collection)

会場

一橋講堂

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2
学術総合センター 2F

主催

人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

人間文化研究機構 共創先導プロジェクト(共創促進研究) 日本関連在外資料調査研究「外交と日本コレクション
—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用—」



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構



人間文化研究機構
基幹研究プロジェクト
NIHU TRANSDISCIPLINARY PROJECTS

科研費
KAKENHI

国立歴史民俗博物館（歴博）を中心とする研究グループは、日本が欧米諸国との外交関係を樹立する幕末期、条約締結各国との間に交わされた贈答品に注目し、海外に伝わる日本からの贈答品の調査と関連史料の研究を進めてきました。欧米の研究者とともに、万延元（1860）年と文久2（1862）年の遣米・遣欧使節団関係品を中心に、贈答美術品の所在確認と実地調査をおこなった結果、多くの伝世資料を把握するに至っています。シンポジウムでは、最新の調査報告をもとに、外交において《もの》が果たした役割について考察し、贈答品の文化史的意義を探ります。

プログラム

【総合司会：鷲頭 桂（歴博）】

※使用言語：日本語および英語（同時通訳あり）

1.10^土

sat

13:00 開場（受付開始）

13:30～ 開会挨拶 西谷 大（歴博・館長）

13:40～ 趣旨説明 日高 薫（歴博）

第1部 幕末使節団と各国にのこる贈答品

[前半司会：日高 薫]

13:50～ ①吉崎 雅規（横浜開港資料館）

「幕末期幕府の遣外使節と江戸の世相」

14:15～ ②福岡 万里子（歴博）

「幕末期徳川外交と遣米使節贈答品」

14:40～ ③エステル・ボエール

（フランス国立ギメ東洋美術館）

「遣欧使節団関係の調査研究現状

— フランスのコレクションを中心に」

15:05～ 質疑応答

（休憩）

[後半司会：高岸 輝]

15:30～ ④レイチェル・ピート＝アンダーヒル

（ロイヤル・コレクション・トラスト）（ビデオ発表）

「江戸幕府からヴィクトリア女王への贈答品

（1860・1862・1864年）— 展覧と分配」

15:55～ ⑤アレクサンドラ・クルヴェロ（リスボン新大学）

「19世紀における日本から

ポルトガルへの外交贈答品」

16:20～ ⑥ダン・コック（オランダ国立世界博物館）

「文化的価値の誤解—オランダにおける

日本の外交贈答品の受容」

16:45～ 質疑応答

17:00 終了

1.11^日

sun

9:00 開場（受付開始）

第2部 外交贈答品について考える

[司会：福岡 万里子]

9:30～ ⑦高岸 輝（東京大学）

「幕末画壇の展開と文久遣欧使節（1862）

— 徳川家茂から欧州君主に贈られた絵画を中心に—」

9:55～ ⑧日高 薫（歴博）「幕末遣外使節がもたらした漆工芸品」

10:20～ ⑨鄭 美娟（韓国国立晋州博物館）

「近世幕府外交と朝鮮国王に贈られた屏風

— 韓国での再発見と玉里島津家模本の新出を機に」

10:45～ 質疑応答

（休憩）

11:15～ ⑩荒木 和憲（九州大学）

「近世日本の外交文書における金銀装飾料紙の使用」

11:40～ ⑪ジラルデッリ青木 美由紀（イスタンブール工科大学）

「『エジプト王』への贈答品—スエズ運河開通前夜の

カイロとオスマン帝国・日本の最初の接触」

12:05～ 質疑応答（12:15終了）

（昼食）

総合討論

[司会：エステル・ボエール、高岸 輝]

13:30～ パネル発表

①黒川 廣子（東京藝術大学大学美術館）

「使節団贈答の置物（主に金工と水晶について）」

②荒川 正明（学習院大学）「使節団贈答の陶磁器」

③松島 仁（静岡県富士山世界遺産センター）「狩野董川中信筆

『富士飛鶴図』と徳川将軍の外交贈答品としての絵画」

④佐藤 寛介（東京国立博物館）「日本甲冑の象徴性」

全体討論 登壇者全員

15:10～ 閉会の挨拶 三浦 篤（大原美術館・館長）

15:15 終了

参加費

無料

定員

会場参加400名・ウェビナー 450名 ※事前に申し込みが必要です。

お申し込み方法

右の二次元コードもしくは下のURLより事前

にお願いいたします（2025年12月21日（日）締切）。

https://www.rekihaku.ac.jp/research/event/20260110_symposium.html

お問い合わせ

国立歴史民俗博物館管理部研究協力課企画・渉外係
メールアドレス sympo@rekihaku.ac.jp

会場アクセス

■東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線
神保町駅（A8・A9 出口）徒歩4分

■東京メトロ東西線 竹橋駅（1b 出口）徒歩4分

※一般参加者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

